

「研究の自由確保」重要

ノーベル化学賞 リスト氏、北大講演

2021年のノーベル化学賞を受賞したドイツのマックス・プランク石炭化学研究所所長で北大特任教授のベンジャミン・リスト氏(55)が11日、北大を訪れ、若手研究者らを前に講演した。信じた研究を貫くことの大切さや学問の自由の重要性について語った。



北大の若手研究者ら
を前に講演するベン
ジャミン・リスト氏

リスト氏は化学反応を促す「触媒」開発で新分野を切り開き、ノーベル賞に輝いた。昨年に続き受賞後2回目となる講演では、狙った化合物を安価で効率的に作る新たな触媒開発について語り「私の研究は極端な方向に向かっていく傾向があり、化学に詳しい人は『ク

レイジーだ』と思うかもしれない。でもこれは実現可能だ」と強調した。

学問の自由の重要性にも触れ「政治が研究者を利用し短期的な利益を求めることもあるが基礎研究は成果が出るまでに数年かかる。研究の自由が確保されてこそ、一見おかしいと思われるような研究にも取り組むことができる」と話した。

会場では若手研究者ら約150人、オンラインでも約300人が聴講し、質疑応答も行われた。後進へのメッセージを求められると、リスト氏は「賞を求めようとすると窮屈になる。

『何かを発見したい』という情熱に従って研究を続けてほしい」とエールを送った。

(大城道雄)